

**見て楽しい本いろいろ ♪**

写真や絵がたくさん載っている、読むだけでなく見て楽しい本を紹介します。

『妖怪』『和菓子』『根付』『千代紙』  
『盆栽』『京料理』『古伊万里』  
『金魚』『切子』『琳派』『刀』  
『若冲』『北斎』『広重』

「ジャパノロジー・コレクション」

(角川ソフィア文庫)

見て学ぶ、和のミュージアムというだけあって、カラーの図版や写真がたくさん使われていて、眺めるだけでも楽しく、まるで美術館のようです。文章は簡潔で、歴史や見どころがよくわかる解説になっています。

『カレー語辞典』 オカタオカ・著  
『ビール語辞典』 リース恵実・著  
『パン語辞典』 ぱんとたまねぎ・著  
『チョコレート語辞典』

Dolcerica 香川理馨子・著

『コーヒー語辞典』 山本加奈子・著

(誠文堂新光社)

なにコレ？こんな辞典あるの？カレー、ビール、パン、チョコレート、コーヒーにまつわる言葉をかawaiiイラストで解説しています。読めば雑学王の仲間入り！

『目でみる漢字』

おかべたかし・文 山出高士・写真

(東京書籍)

目でみて感じる写真集。「山」っぽい山など、ある漢字をイメージするものや風景の写真がいっぱい！

『食品サンプル百貨店』

竹村真奈/小西七重・編著

(ギャンビット)

おいしそう？かわいい？ちょっと変？なメイドインジャパンの食品サンプルがあふれています。思わず食べたくなるものばかりです。

**☆図書委員からのオススメ☆**

『何者』 朝井リョウ 著 新潮文庫 (B913-ア)

「想像力が足りない人ほど、他人に想像力を求める。他の人間とは違う自分を、誰かに想像してほしいくてたまらないのだ。」

これは、主人公の拓人が気に食わない人たちを「観察」して思ったことです。自分にブーメランが刺さっていることも知らずに…。

就職活動を目前に控えた拓人は、同居人・光太郎の引退ライブに足を運びました。光太郎と別れた瑞月も来ると知っていたから一。瑞月の留学仲間・理香が拓人たちと同じアパートに住んでいるとわかり、理香と同棲中の隆良を交えた5人は就活対策として集まるようになる。しかし、SNSや面接で発する言葉の奥に見え隠れする、本音や自意識が、彼らの関係を次第に変えて…。

この話の登場人物は、全員がそれぞれ闇を抱えています。しかもその闇というのがとてもリアルで、誰もが経験したことがあるものばかりです。読んでいると続きが気になるけど、これ以上自分でも知らなかった自分の闇を、見つけたくないという不思議な感覚に陥ります。マジで SNSの使い方は気をつけようと思いました(笑)。2013年に直木賞を受賞、去年は映画化もされています。この本を読み、自分自身を見つめ直してみたいはいかがでしょうか？